

試料・情報利用研究計画書(概要)						
審査委員会 受付番号	2020-2010	利用 形態	内部研究	利用する 試料・情報	対象:三世代コホート調査に参加した妊婦及びその児 約20,000組(症例(妊娠高血圧症、加重型妊娠高血圧腎症、妊娠高血圧腎症)約2,000組、対象約18,000組) 試料:なし 情報:調査票情報、カルテ転記情報、検体検査情報、ゲノム情報、メタボローム解析情報	
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	-	
研究題目	妊娠高血圧症候群の臨床的な多様性による詳細な層別化に基づくリスク因子の推定手法の開発			研究期間	2020年10月～2025年3月	
実施責任者	荻島 創一	所属	東北メディカル・メガバンク機構		職位	教授
研究目的と意義	産科における主要な疾患の一つである妊娠高血圧症候群(HDP)は、合併症の有無や、治療への反応など、現在定義されているサブタイプ以上に、臨床的な多様性があることが知られている。そこで、本研究は、HDP の臨床的な多様性を反映する、ゲノム・曝露情報などを統合した新たなサブタイプ分類の開発、サブタイプ分類別のリスク因子の推定のための新たな手法開発を目的とする。					
研究計画概要	母親の健康調査情報、ゲノム情報、メタボローム解析情報から、妊娠高血圧症候群の臨床的な多様性によるサブタイプ分類を開発し、サブタイプ別の、臨床的多様性に関連するリスク因子の推定手法の検討を行う。					
期待される成果	本研究で開発する手法は、高血圧などよくある疾患の発症機序の理解と新たな治療法開発のための、臨床的な多様性に基づくリスク推定の基礎となる。					
これまでの倫理 審査等の経過	2020年10月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	ヒトを対象とする医学系研究の倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理指針、ToMMoセキュリティポリシーを遵守して研究を遂行し、高度なセキュリティが担保された東北メディカル・メガバンク機構スーパーコンピュータ内で解析を行う。					
その他特記事項	科学研究費助成事業					
* 公開日	令和2年11月10日					